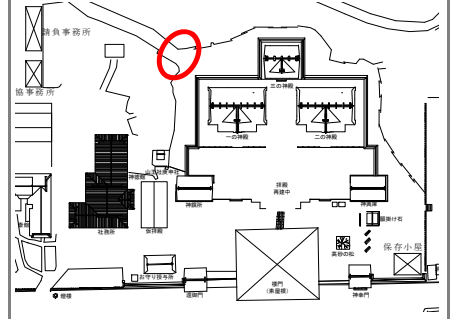




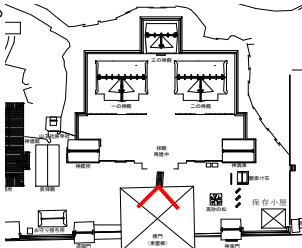
台風10号被害状況

一の神殿南西側の木が台風
の強い風によって倒れてし
まいました。ただちに撤去
されました。



現在の素屋根内部の様子

楼門素屋根の内部を神殿
側から見た写真です。
楼門の大きな部材を素屋
根内に搬入し、現在は柱や
壁板の繕いを行っています。
す。



門扉の仮組

新材と補修した古材を組み
合わせ、門扉の仮組を行
いました。微調整をしたあ
と、また解体して、新材に
は古色塗を行います。





下層 隅木下 持送加工

柱に差さる部分の加工を行いました。加工後、彫刻を行います。

この部材です



(公募写真)

下層柱の繕い状況

水腐れや倒壊時に生じた割れを、埋木・矧木・接着剤付けしました。



新規藁座製作

門扉上部に取り付く藁座の一つが割れてしまい使えなくなりましたので、新たに作りました。

この部材です



(公募写真)



下層柱繕い状況

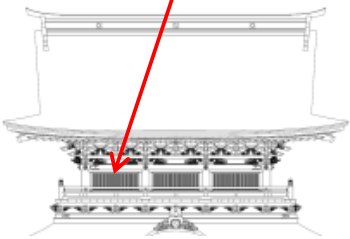
倒壊時に生じた割れを、埋木・矧木・接着剤付けしました。

柱上部の頭貫という部材が取り付く場所です。千切（ちぎり）という蝶型の木材を埋め込み簡単に外れないように補修しました。

上層連子窓組立

連子窓の上框を補修しました。

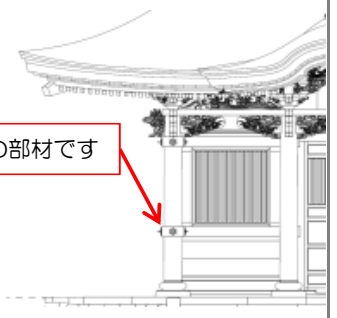
この部材です

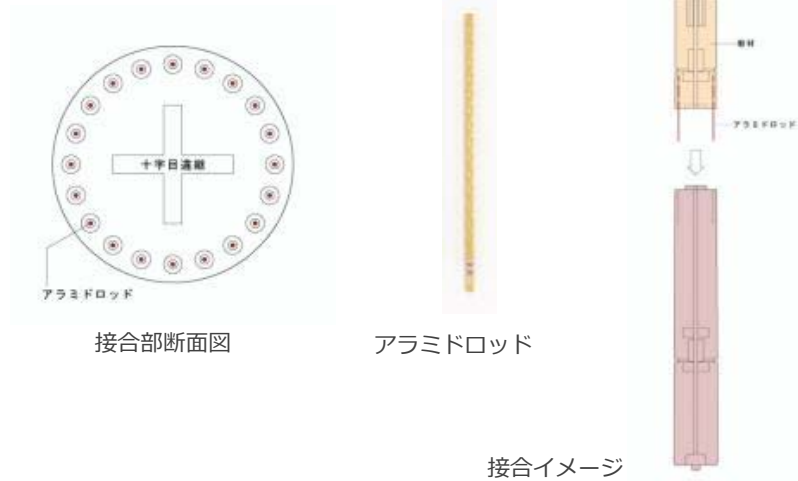


長押の繕い

倒壊時に生じた割れや表面のすり疵・へこみなどを、埋木・矧木・接着剤付けしました。

この部材です





接合部断面図

アラミドロッド

接合イメージ

新工法の補修

柱頭の継手には、新素材を用いて継木をする新工法を採用することになりました。木造として阿蘇神社の楼門に初めて適用します。

柱頭の継木＝十字目違＋アラミドロッド補強

アラミドロッドは、重量は鋼材の6分の1、引張強度は鉄筋の4倍という素材です。この工法の採用により古材を7割再用できる見込みです。

(202203 改訂)

柱継木加工状況①

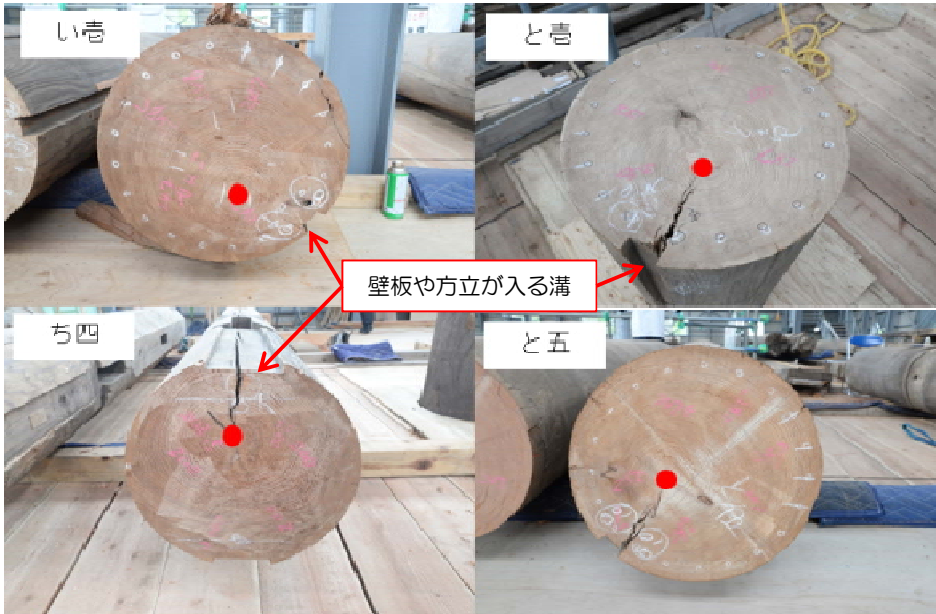
アラミドロッドの穴をあけ、十字目違を加工しました。



柱継木加工状況②

鑿（ノミ）や鉋（カンナ）を使って、加工面をきれいに仕上げ、完成です。





柱の木の使い方

柱の断面を観察してみると、割れが柱表面に見えない壁板や方立の位置都合よく入っていることに気が付きました。

さらに観察すると、木材の芯を方立や壁板が取り付く方向へ寄せて割れが入る位置を誘導しているようでした。

当時の大工さんは、割れが方立や板壁の方向へ入るように考えて木材を使っていたことが分かりました。

門扉受金具にベアリング

門扉下部の石に取り付く、金具を調べたところ、ベアリングが発見されました。昭和期の修理の際に入れられたと考えられます。



ここの部材です



墨書
上層廻縁 親柱

枅から墨書が発見されました。

「昭和十九 年四月〇日
宮地町拾六番 〇〇〇〇
〇」